

# JICAベトナム事務所 月報

第177号 (2024年7-8月号)  
2024年8月27日発行

本月報に関するご意見、ご要望は  
[vt\\_oso\\_rep@jica.go.jp](mailto:vt_oso_rep@jica.go.jp)までお送り下さい。

Website (日・越・英) :  
<http://www.jica.go.jp/vietnam/vietnamese/index.html>

Facebook (越) :  
<https://www.facebook.com/jicavietnam/>

発行 : JICA ベトナム事務所広報班

# 目次

- JICA・FTU 共催 JICA チェア特別講義  
「成長モデルの刷新:日本の経験とベトナムへの含意」 3

## プロジェクト活動

- 700年以上の歴史をもつフーラン伝統陶芸村と  
福岡県・東峰村の陶器生産技術の融合を！ 4
- 環境モニタリングの研修ニーズ評価に関する  
ワークショップを開催 5

## イベント

- 日本商工会議所・金融保険部会とのスタディーツアー 6
- 公明党山口代表他議員団によるホーチミン市都市鉄道  
1号線視察 7

# JICA・FTU 共催 JICA チェア特別講義 「成長モデルの刷新：日本の経験とベトナムへの含意」

7月24日、JICAは貿易大学(FTU)との共催により、トラン・バン・トー早稲田大学名誉教授による特別講義「成長モデルの刷新：日本の経験とベトナムへの含意」を実施し、大学関係者、学生、民間企業関係者などが参加しました。

本セミナーでは主要な成長モデルの理解をベースに、ベトナムが今日参考にすべき日本の開発経験からの示唆を明らかにしました。講義のまとめとして、ベトナムが中所得国の罫を回避し、2045年までに高所得国となるには、労働生産性を継続的に向上させることが条件となるほか、経済構造を継続的に上方転換することが重要である、さらにこのプロセスにおいて、資本蓄積とイノベーションの両方が重要で、国家は投資効率を

向上させ、イノベーションを促進し、構造変革を促進する質の高い人材の育成を目指す必要があると強調されました。

JICAは2020年に、日本の近代化と開発途上国への開発協力から得た経験と教訓を共有する機会を広げることを目的とし、途上国のトップクラスの大学や研究機関を対象にした「JICA チェア」を立ち上げました。ベトナムにおいては2021年から事業を開始し、日本研究を志向する機関への図書や寄贈や、著名な日本の研究者による特別講義などを支援しています。本特別講義は JICA チェアの枠組みで行われました。



トラン・バン・トー早稲田大学名誉教授(右)

## 700年以上の歴史をもつフーラン伝統陶芸村と 福岡県・東峰村の陶器生産技術の融合を！



日本人専門家及びマスター研修生による窯出しデモンストレーション

7月19日、バクニン省クエボ郡フーラン村にて、東峰村と有限会社鬼丸雪山窯元及びクエボ郡とフーラン村の人民委員会による、草の根技術協力事業「バクニン省フーラン村陶器生産者生活向上事業」を通じて作成された陶器の新作発表会が開催され、各関係機関、現地メディア、現地住民が多く参加しました。本事業では、地元の天然資源利用の効率化による環境保護、若手の陶芸従事者の育成、フーラン陶芸村の地域経済の発展に貢献することを目指し、フーラン村等の若手陶芸従事者を対象に、東峰村の伝統的な陶芸技術指導を行うほか、陶芸産地リーダーとしてマスター研修生を育成し、マスターが制作した研修終了作品をベトナム国内や日本での広報イベントにて展示をしました。2021年8月からの3年間の活動において、52名の若手の陶器従事者が3カールの研修に参加し、うち14名がマスターとして認定されました。

これらのマスターが制作した研修終了作品展は民間企業による支援も受けながら、「Phu Lang Pottery Aquarium(フーラン竜宮焼)」というタイトルにて陶器展示会が開催されました。発表会の挨拶で、フーラン村人民委員会グエン・クイ・ティン副委員長は、「今までは大型の陶器を大量生産していたが、本事業枠内で高付加価値陶器を生産できるようになったことは、環境保護及び天然資源の有効活用に貢献するものだ」と、事業の成果を高く評価しました。また、事業終了後、東峰村とフーラン村との間で、陶器生産の技術交流を続けたいと表明しました。

今後、フーラン村若手陶芸従事者が安定的な生産を続け、日本市場やベトナム国内市場において高い価格で販売することにより、陶芸従事者の収入や生活が向上されることが期待されます。

事業概要

[事業提案書要約 \(jica.go.jp\)](https://jica.go.jp)

## 環境モニタリングの研修ニーズ評価に関するワークショップを開催

7月5日、フーエン省において、「環境モニタリング技術や管理が定められた通達第10/2021/TT-BTNMT号に基づいた研修ニーズ評価」ワークショップが開催され、10省の農業・農村開発局(DONRE)の代表者が参加しました。本ワークショップは、「食と環境の安全・安心を実現するハイテク簡易オペレーション分析デバイスの開発と人材育成」プロジェクト(主な実施機関は早稲田大学・情報生産システム研究科及びベトナム国家大学・自然科学大学:VNU-HUS)と天然資源環境研修所(InNET)が共催し、ベトナムの環境モニタリング活動に従事する職員の能力向上を目的とした研修コースの開発に向けて、各省の研修ニーズと研修内容を評価するための第一回目のワークショップになります。

ワークショップ冒頭、プロジェクトマネージャーのグエン・ヴァン・ノイ教授より、「本日は、各省の環境モニタリング活動の現状を把握し、地域の環境モニタリングに関わる職員の能力向上のための研修に必要な内容を明らかにしたいと思っております」と目的についての説明がありました。

続いて、プロジェクト主任研究員の馬渡和真教授より、プロジェクト概要と、プロジェクトで実施を予定している各省DONREの能力強化の研修の構想や、研修場所となる現在プロジェクトで整備中のVNU-HUSホアラックキャンパスの実験室の紹介がありました。

またワークショップでは、プロジェクトに関わる工場製作所と東亜ディーケーケーの2つの日本企業から、担当するプロジェクトの活動や、自社で扱う分析装置の紹介などが行われました。その後、参加者全員で実際に環境モニタリングを実施する上での困難や経験についての活発なディスカッションが行われました。

今回のワークショップで得られた情報から、省の使用頻度の高い分析装置や技術を同定し、省DONRE職員に必要な研修を考案していく予定です。プロジェクトでは引き続きベトナムの環境保護に向けた活動を展開していきます。

※プロジェクト「食と環境の安全・安心を実現するハイテク簡易オペレーション分析デバイスの開発と人材育成」は、地球規模課題対応国際科学技術協カプログラム(SATREPS)の下、VNU-HUSと早稲田大学が共同で実施しています。



集合写真

# 日本商工会議所・金融保険部会とのスタディーツアー



ダム水力発電所での集合写真

6月21～22日、JICA ベトナム事務所菅野祐一所長は日本商工会議所・金融保険部会のスタディーツアーに参加し、Ninh Thuan 省と Lam Dong 省における3件のJICAの協力案件を視察しました。今回訪問した3件の協力案件では、JICAの協力終了後も引き続きプロジェクトの成果が有効活用されています。

1つ目はダム水力発電所で、ベトナムにおける最も古い水力発電所の一つであり、日本との協力の代表例と知られています。本水力発電所はドンナイ(Dong Nai)川の水資源を開拓し、ドンズオン(Don Duong)湖の上に1961年から建設が開始し、1964年1月15日に1号発電機と2号発電機(計160MW)が正式に稼働を開始しています。

3つ目は、ラムドン省におけるポストハーベスト処理改善に向けた日本式高度選果・マーケティングの普及・実証事業(2016-2017、日興フーズ株式会社)です。

本スタディーツアーを通し、参加頂いた日本商工会議所・金融保険部会の皆様に Ninh Thuan 省と Lam Dong 省におけるこれまでのJICAの協力案件について、理解を深めて頂く機会となりました。JICAは、引き続き様々な方にJICAの案件に接する機会を提供していきます。

## 公明党山口代表他議員団によるホーチミン市都市鉄道1号線視察

7月16日、ホーチミン市を訪問した公明党の山口那津男代表、竹谷とし子参議院議員、中川康洋衆議院議員は、日本のODA事業であるホーチミン市都市鉄道1号線の始発駅であるベントゥイン駅を視察しました。JICAベトナム事務所の菅野所長からはホーチミン市における日本の協力概要と都市鉄道の全体像をご説明し、ベントゥイン駅の施工者である三井住友建設の下山所長からは駅の概要についてご説明をしました。

議員団皆様からは、日本の技術により大変良いものができており、開通を楽しみにしているというお言葉を頂きました。

1号線は年内開業に向けて、日越の関係者が一丸となり、協力体制を築いています。開業前においても様々なイベントが開催され、ホーチミン市の人々の期待は高まっています。人々の生活水準の向上、地域経済の発展のため、JICAも協力してまいります。



公明党山口代表他議員団とJICA、ホーチミン市都市鉄道1号線関係者での集合写真